

2025年度 第2四半期連結決算説明資料

2025年11月12日
株式会社 西島製作所
(6363)

- 【1】 2025年度第2四半期決算実績**
- 【2】 重点課題の対応**
- 【3】 2025年度通期決算見通し**
- 【4】 トピックス**

【1】 2025年度第2四半期決算実績

【2】 重点課題の対応

【3】 2025年度通期決算見通し

【4】 トピックス

2025年度 第2四半期決算のポイント

- 受注高は483億円と年間計画に向けて順調に推移。
- 売上高は、官需・民需・海外・子会社とも好調で412億円と大幅増収。
- 売上総利益率が1.6pt低下し、それに伴い営業利益は5億円と前年同期比で1億円減益。
- 純利益は、前期に特別利益10億円を計上したこともあり、前期比で6億円減少。
- 売上高は、2029年度の中期計画1,000億円に向け順調に伸長しており、収益も昨年度以上を期待できる見込み。ただし、外注費を削減するための投資を着実にを行っているものの、その効果は来期以降にずれ込むことにより、収益面については当初計画の下方修正を行う。

連結営業利益の増減分析

			前年同期比
● 受注高	—	483億円	▲95億円
● 売上高	—	412億円	+36億円
● 営業利益	—	5億円	▲1億円
● 経常利益	—	0億円	2億円
● <small>親会社株主に帰属する</small> 中間純利益	—	▲1億円	▲6億円

2025年度 第2四半期連結決算実績（連結）

単位：億円

	2024年度 第2四半期	2025年度 第2四半期	前年同期比		2025年度 通期計画 (2025年5月策定)	進捗率
			増減額	増減率		
受注高	578	483	▲95	▲16.4%	900	53.7%
売上高	376	412	+36	+9.6%	890	46.3%
売上総利益 (売上総 益率)	96 (25.5 %)	99 (23.9%)	+3 (▲1.6pt)	+3.1%		
販管費	89	93	+4	+4.5%		
営業利益 営 業 益 率)	6 (1.6%)	5 (1.3%)	▲1 (▲0.3pt)	▲16.7%	67 (7.5%)	7.5%
営業外損益	▲8	▲5	+3	—	—	—
経常損益	▲2	0	+2	—	58	—
特別損益	+10	-	▲10	▲100.0%	—	—
親会社株主に帰属する 中間純利益	5	▲1	▲6	-	43	—

期末レート (1USD) 2024/9末 : 142.73円 2025/9末 : 148.88円

想定レート : 145円

受注 : 前年同期比の水準と比べると95億円減で483億円となったが、過去5年では2番目の受注高水準を維持。
売上 : 官需・民需・海外・子会社とも好調で全体では412億円と増収。
利益 : 増収ながらも売上総利益率の低下により、営業利益は前年同期比1億円減の5億円。

2025年度 第2四半期連結決算実績 (単体・子会社別)

■ 単体

単位：億円

	2024年度 第2四半期	2025年度 第2四半期	前年度比	
			増減額	増減率
売上高	266	320	+54	+20.3%
売上総利益 (売上総利益率)	46 (17.3%)	46 (14.4%)	0 (▲2.9pt)	±0
販管費	53	53	0	±0
営業利益 (営業利益率)	▲8 (▲3.0%)	▲7 (▲2.2%)	+1 (0.8pt)	—

売上高は、官需は進行基準案件の売上が順調に計上されたことに加え、中東・北米向け案件の増加もあり、320億円と大幅増収。

一方、相対的に利益水準の低いハイテクポンプの比率が高く、売上増に伴う外注加工費の大幅増加も加わり、売上総利益率は2.9pt大きく悪化。

販管費は、賃上げ対応による労務費増加があったものの、固定費は前年並みを維持。

その結果、営業利益は昨年並みにとどまる。

■ 子会社 (連結調整前)

単位：億円

	2024年度 第2四半期	2025年度 第2四半期	前年度比	
			増減額	増減率
売上高	149	165	+16	+10.7%
売上総利益 (売上総利益率)	53 (35.6%)	56 (33.7%)	+3 (▲1.9pt)	+5.7%
販管費	40	42	+2	+5.0%
営業利益 (営業利益率)	14 (9.4%)	14 (8.3%)	▲0 (▲1.1pt)	+0.0%

売上高・売上総利益ともに、サービス子会社を中心に増加。

一方で販管費は、労務費等固定費などの影響で増加。その結果、営業利益は14億円で前年並み。

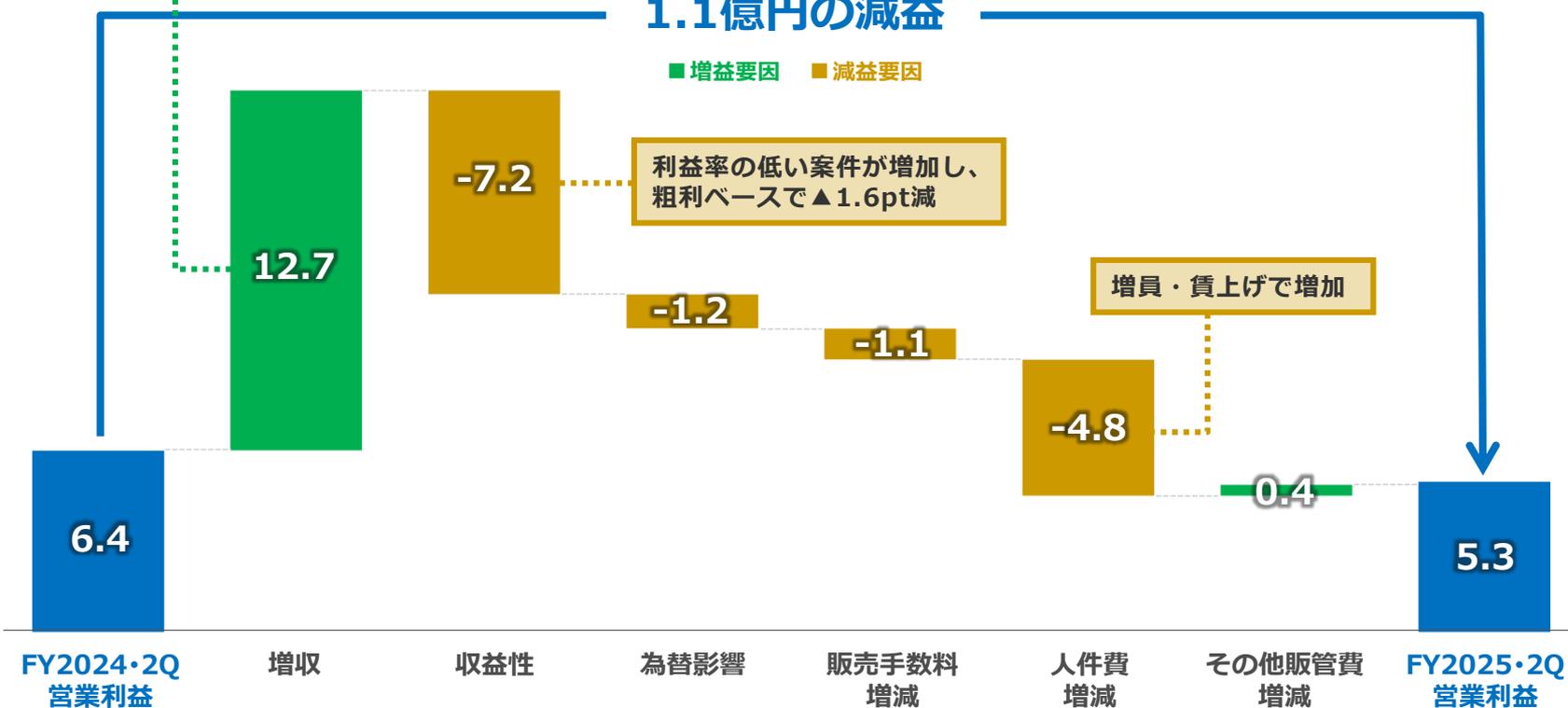
連結営業利益の増減分析

官需・民需・海外・子会社とも好調で増収

単位：億円

1.1億円の減益

■ 増益要因 ■ 減益要因

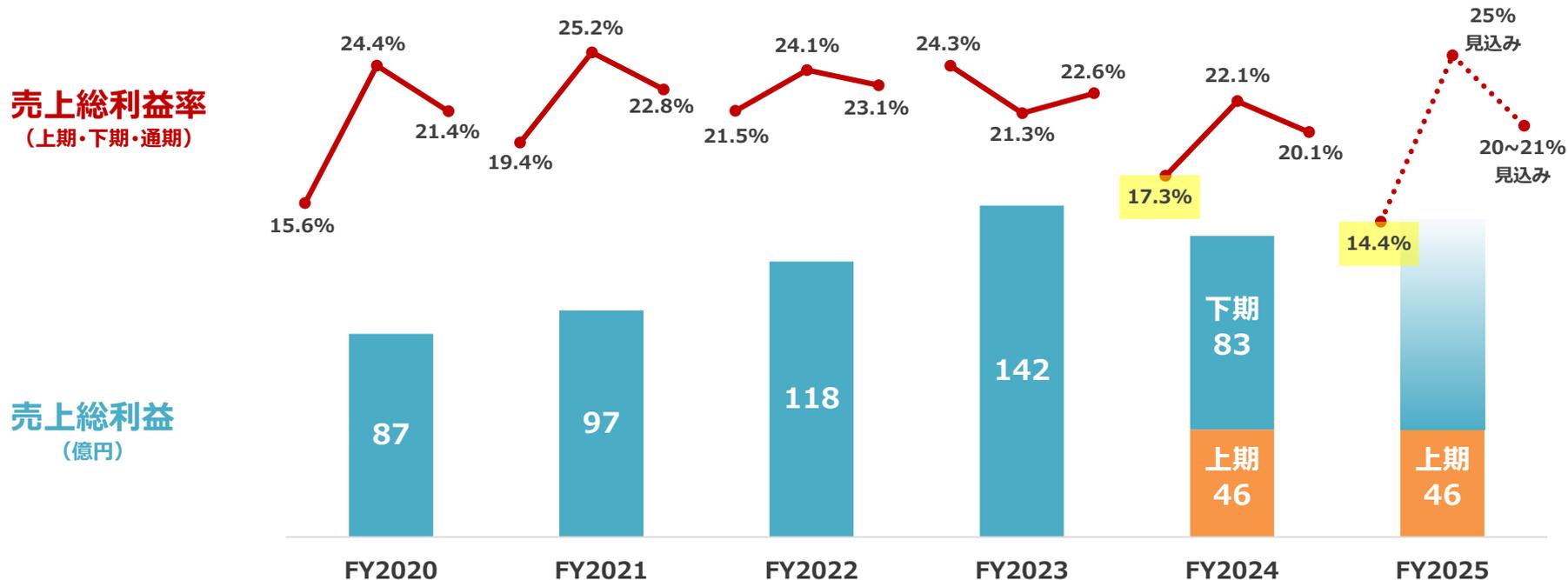


利益率の低い案件が増加し、粗利ベースで▲1.6pt減

増員・賃上げで増加

※増減分析の各項目は、為替影響の控除後のため、損益計算書の各項目の金額とは一致しません。

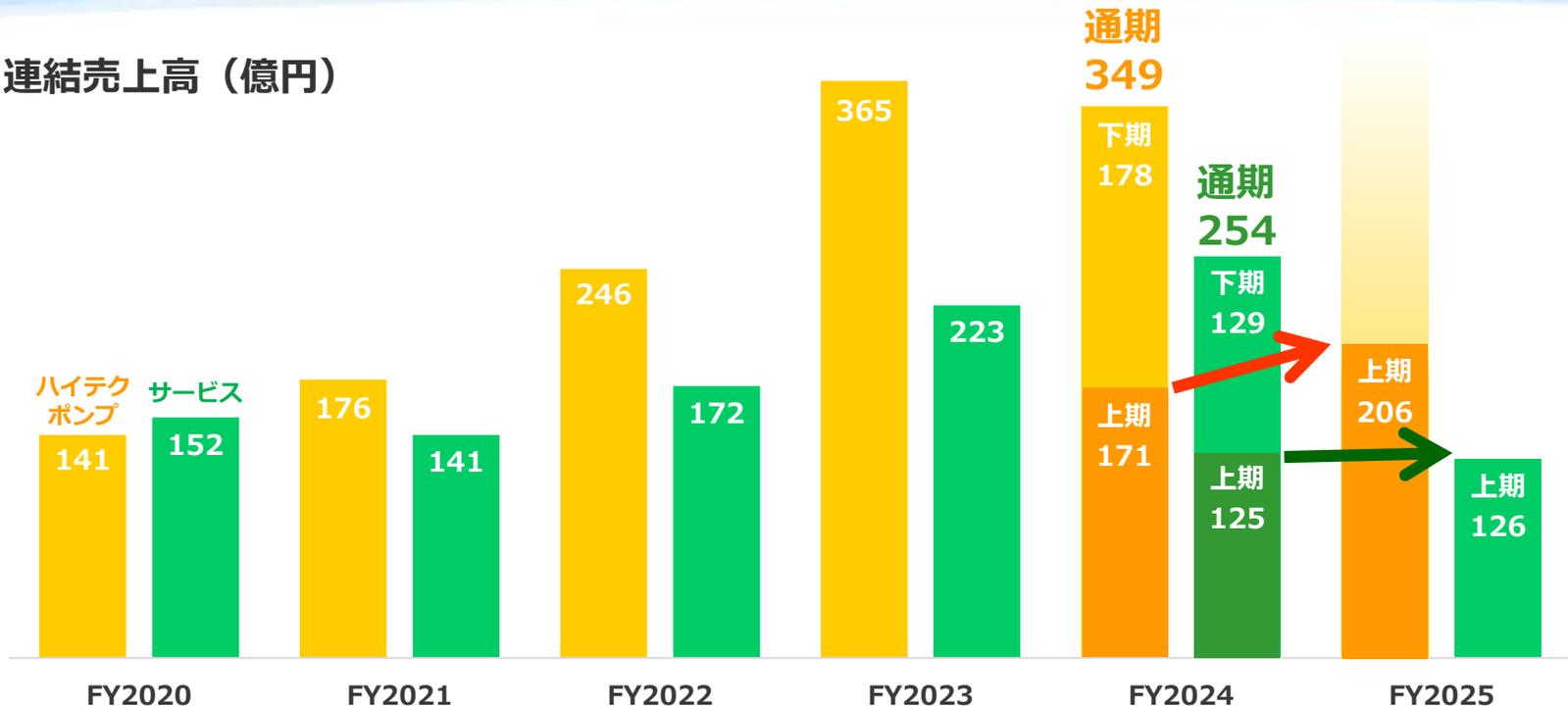
単体の売上総利益率（上期・下期・通期） および通期売上総利益の推移



- FY2025上期は、利益水準の低いハイテクポンプの比率が高く、売上増に伴う外注加工費の増加も加わり、売上総利益率が低下。
- 今年度から取り組んでいる足元の「つくる力」の強化に加えて、中期でめざすサービス事業の強化を加速し、収益性の改善をはかっているが、売上総利益への本格的な寄与は来期以降を見込む。

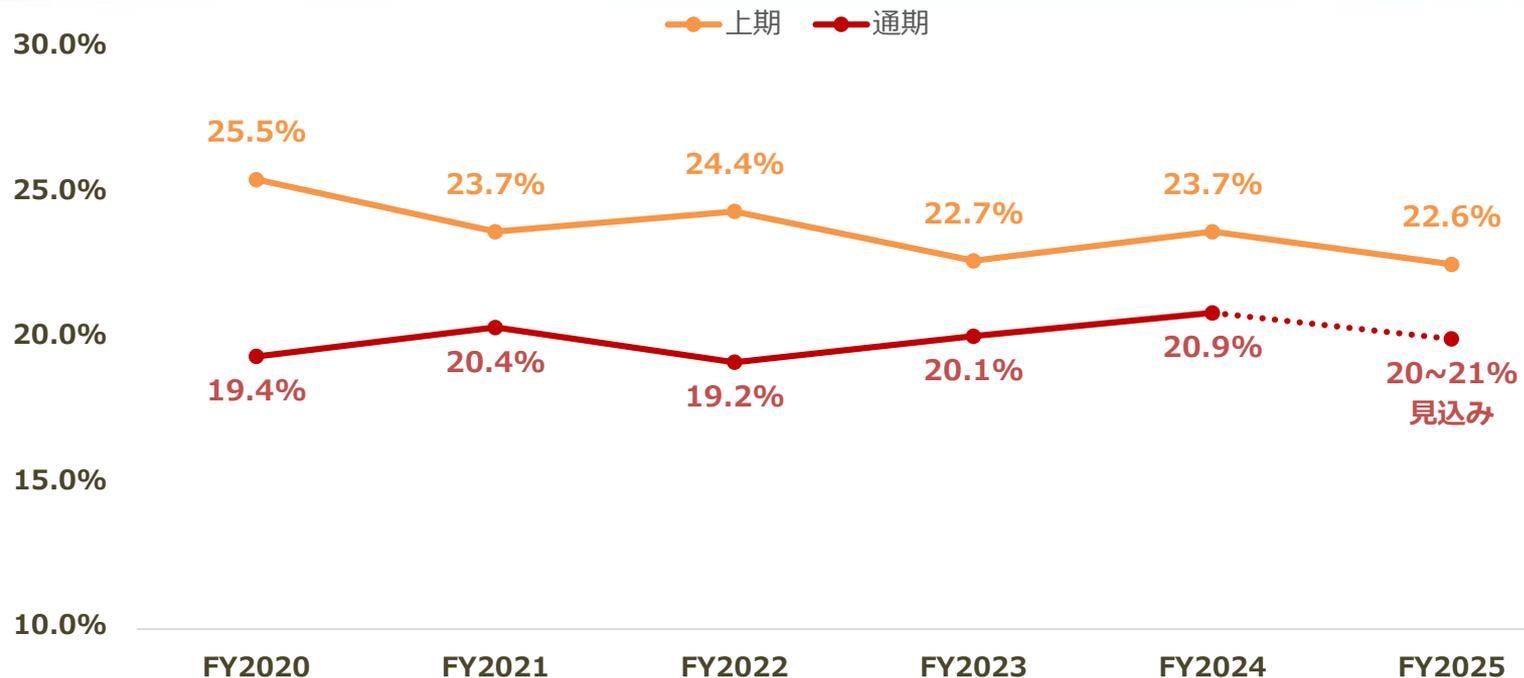
ハイテクポンプとサービスの推移

連結売上高（億円）



ハイテクポンプの売上は極めて順調に推移し、
上半期で過去最高額となるが、サービス部門は前年度並みにとどまる。

売上高販管費比率の推移（連結）



販管費は4億円増加したが、売上増加もあり、売上高販管費比率では低下。
上期の主な増加要因は人件費の増加（2億円）。単体は横ばいで子会社及び連結で増加。

【1】 2025年度第2四半期決算実績

【2】 **重点課題の対応**

【3】 2025年度通期決算見通し

【4】 トピックス

重点課題の対応

「つくる力」の強化

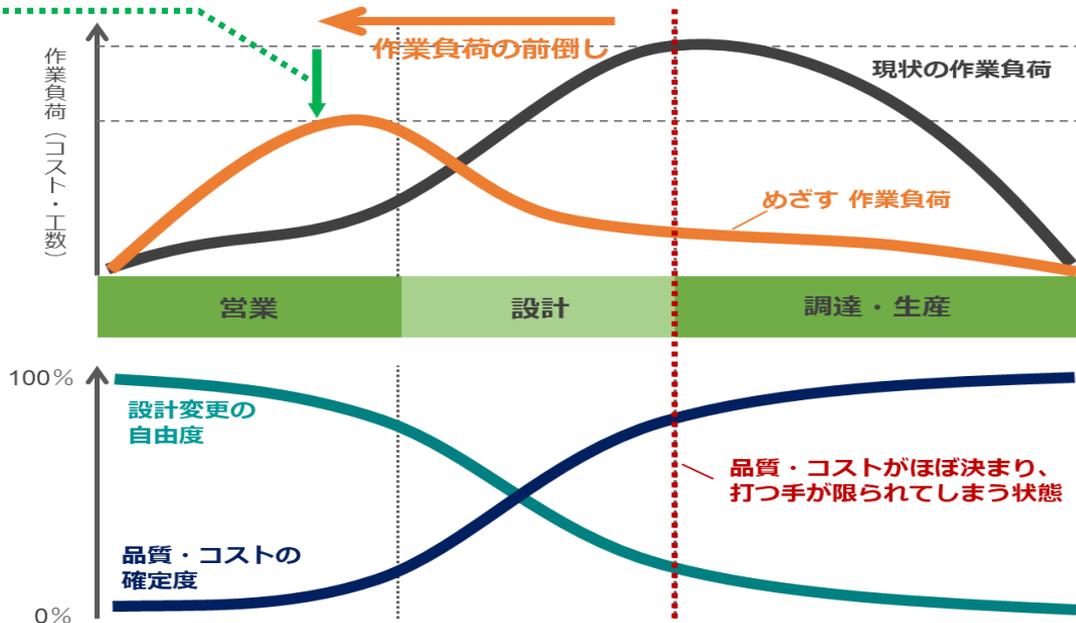
「フロントローディング」と「生産能力増強」の両軸で、
内製比率を引き上げ、収益性の向上を図る。

サービス事業の強化

収益性の高いサービス事業をさらに拡充し、全体収益の底上げを図る。

「つくる力」の強化 : フロントローディング

- ・お客様との情報共有
 - ・手戻りの撲滅 等により
- 総作業負荷を削減**



[出典]

実践 エンジニアリング・チェーン・
マネジメント-IoTで設計開発革新
日野 三十四 (著)
日刊工業新聞社

設計から営業フロントへ10名規模で人員を異動済み。
これにより仕様の確定を早期に行うことで、後工程のリードタイムを確保し、
内製比率を引き上げる基盤を構築中。実際に、上半期で過去最高額の生産を対応済。

「つくる力」の強化 : 生産能力増強

<子会社の活用>

- ① インドのサービス拠点に機械加工工場を建設中（下期より既存サービス工場内で先行稼働開始）
- ② 九州トリシマへボイラ給水ポンプの設計・製造を一部移管・実行済み



インドサービス会社 (TPIPL)



(株)九州トリシマ

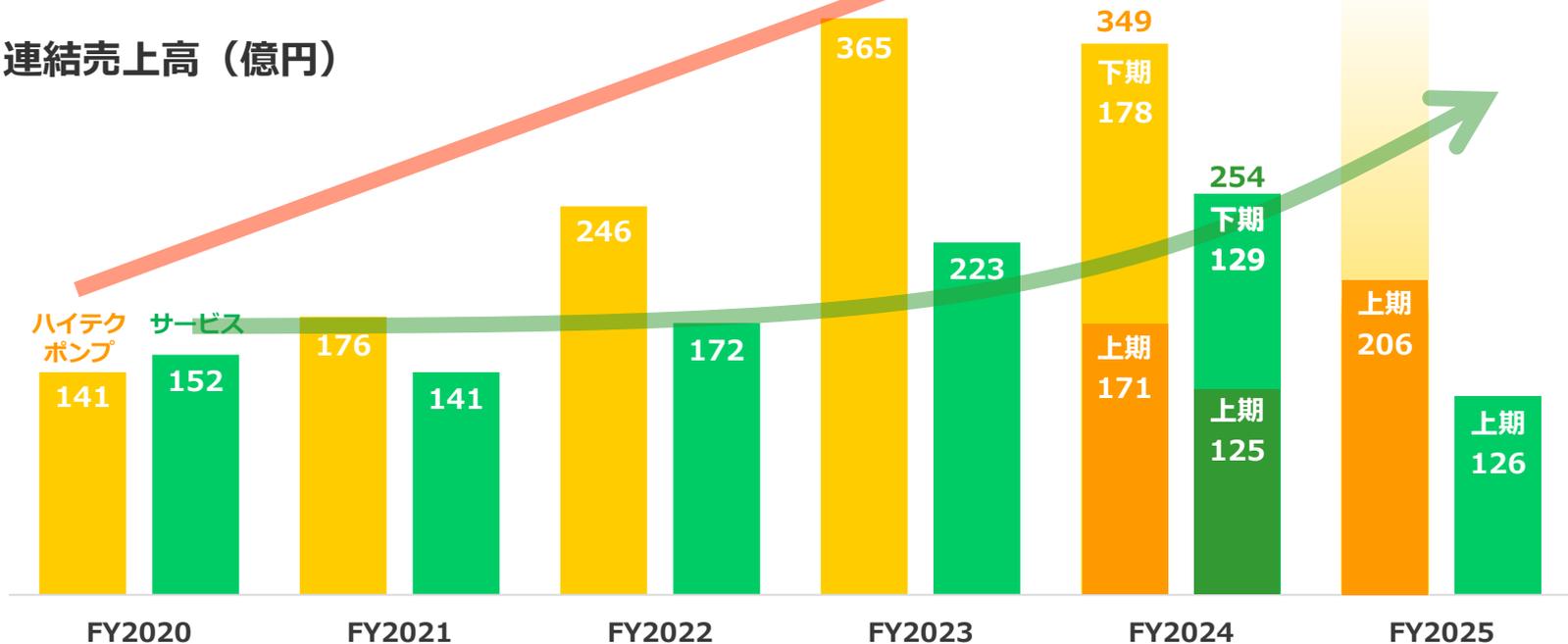
<機械加工会社2社の買収を完了>

外注していた機械加工をグループ内で取り込む。ただし、利益に反映されるのは来期以降となる見込み。

重点課題の対応

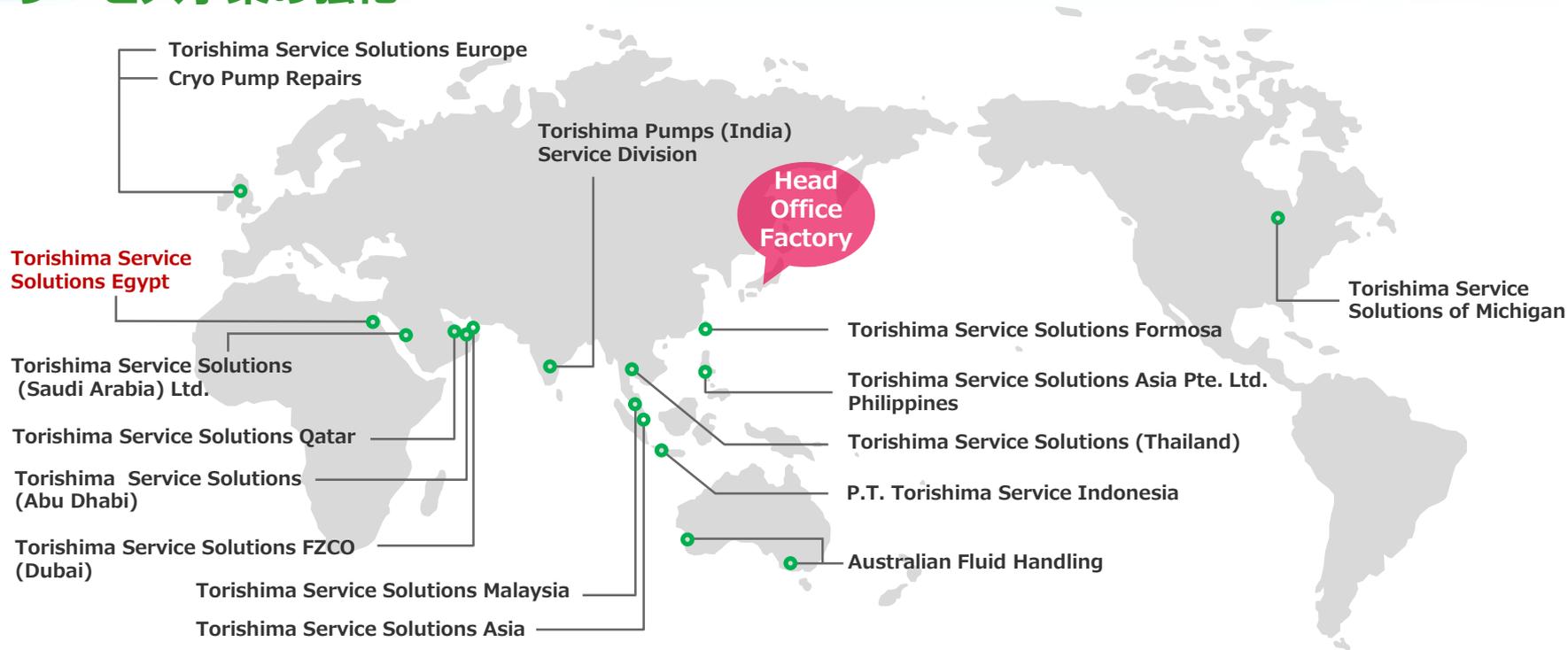
サービス事業の強化

連結売上高（億円）



伸びるハイテクポンプの需要を高収益のサービス事業に繋げ、
全体の利益率向上を図る。

サービス事業の強化



世界16拠点でサービスビジネスを展開中。

(エジプトのサービス拠点も2026年3月には計画通り稼働予定)

- 【1】 2025年度第2四半期決算実績
- 【2】 重点課題の対応
- 【3】 2025年度通期決算見通し**
- 【4】 トピックス

2025年度通期決算見通し（連結）

単位：億円

	2024年度 実績	2025年度			当初 計画比
		上期実績	当初計画	修正計画	
受注高	956	483	900	900	変更なし
売上高	865	412	890	890	変更なし
売上総利益 (売上総利益率)	235 (27.2%)	99 (23.9%)	245 (27.5%)	239 (26.9%)	▲6 (▲0.6pt)
営業利益 (営業利益率)	54 (6.2%)	5 (1.3%)	67 (7.5%)	58 (6.5%)	▲9 (▲1.0pt)
経常利益	45	0	58	51	▲7
親会社株主に帰属する 当期純利益	41	▲1	43	36	▲7

為替レート

2024/3末:
1 \$ = 149.52円

2025/9末:
1 \$ = 148.88円

1 \$ 145円を想定

1 \$ 150円に想定を変更

売上高は順調に推移し、昨年度以上の収益水準を確保できるものの、外注費の削減が来期以降にずれ込むため、計画比で収益を下方修正。

2025年度通期決算見通し（単体・子会社）

■単体

単位：億円

	2024年度 実績	2025年度			当初 計画比
		上期実績	当初計画	修正計画	
売上高	642	320	650	650	変更なし
売上総利益 (売上総利益率)	129 (20.1%)	46 (14.4%)	135 (20.8%)	130 (20.0%)	▲5 (▲0.8pt)
販管費	105	53	99	104	+5
営業利益 (営業利益率)	24 (3.7%)	▲7 (▲2.2%)	36 (5.5%)	26 (4.1%)	▲10 (▲1.4pt)

■子会社（連結調整前）

単位：億円

	2024年度 実績	2025年度			当初 計画比
		上期実績	当初計画	修正計画	
売上高	320	165	339	339	変更なし
売上総利益 (売上総利益率)	115 (35.9%)	56 (33.7%)	118 (34.8%)	116 (34.3%)	▲2 (▲0.5pt)
販管費	82	42	85	83	▲2
営業利益 (営業利益率)	33 (10.3%)	14 (8.3%)	33 (9.7%)	33 (9.9%)	0 (+0.2pt)

※子会社決算は子会社の連結調整前の数字となっております。そのため、単体+子会社=連結業績とはなりません。

- 【1】 2025年度第2四半期決算実績
- 【2】 重点課題の対応
- 【3】 2025年度通期決算見通し
- 【4】 **トピックス**

インドサービス拠点において機械加工工場を新設し、
グループ全体の機械加工能力を増強する。



Phase 1 : 先行稼働 (実績/進捗)

- ・ 設備導入 : 既存サービス工場内に機械8台を設置済
- ・ 稼働時期 : 2025年下期より順次稼働
- ・ 主な業務内容 : 本社受注品の加工（材料は現地調達）、サービス事業用部品の加工、本社からの加工業務（素材本社支給）も順次開始。

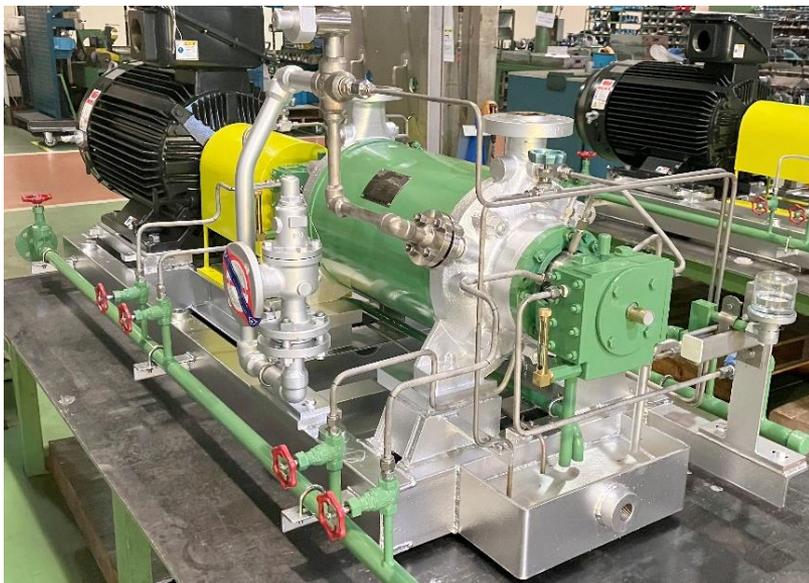
Phase 2 : 本格稼働 (計画)

2026年3月頃 :

- ・ 新設の機械加工工場の建屋が完成予定
- ・ 新設建屋への機械移設と新規2台の機械の追加導入による本格稼働開始

(株)九州トリシマに 高圧ハイテクポンプの設計・製造を一部移管

本社工場で設計・製造していた高圧ハイテクポンプ（MHD型の小口径モデル）を2025年7月よりグループ会社（株）九州トリシマに移管し、本社負荷の軽減を図る。
（2026年3月までに40台の受注見込み）



内製化を推進し、コスト競争力の強化する。

Juneung Co., Ltd. (韓国)



設立年 : 1992年設立

買収形態 : 100%子会社化

事業内容 : ポンプおよび回転機器業界向けの
機械加工業務 (ケーシングなどの加工に強み)

経緯 : 従前より機械加工を依頼していた
主要な外注先を子会社化

内製化を推進し、コスト競争力の強化する。

KRG Specialist Engineering Services Ltd. (英国)



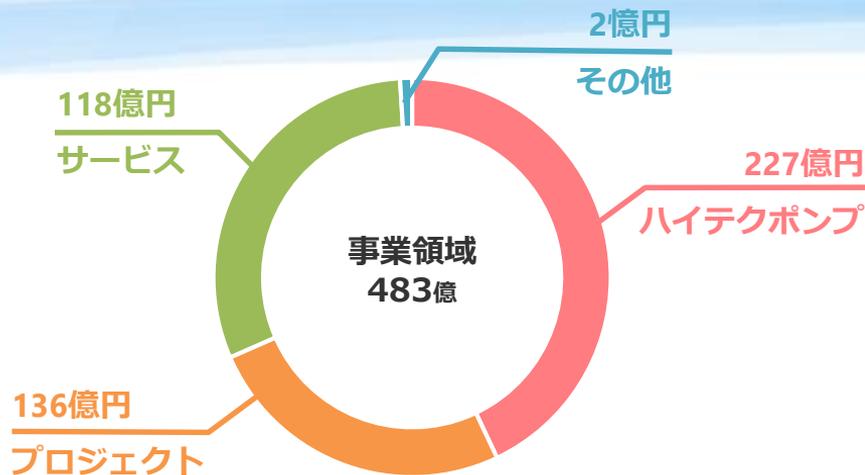
設立年 : 1978年設立

事業内容 : 精密機械加工
(シャフトなどの加工に強み)

買収形態 : 100%子会社 (TSSE) による
完全子会社化

参考資料

事業領域及び需要先（2025年度第2四半期受注高実績）



ハイテクポンプ

発電所や海水淡水化プラント、上・下水道施設、かんがい施設など向けの大型ポンプ（エンジニアリングポンプ）及び一般産業向けのエコポンプ（小型標準ポンプ）。

プロジェクト

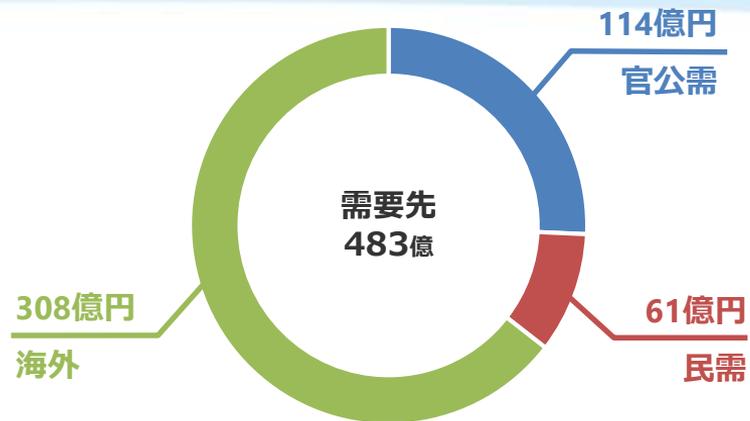
上下水道、かんがい、排水機場におけるポンプ設備全体のEPC（設計・調達・建設）案件。

サービス

既存ポンプ及びポンプ設備の取替え、保守点検、REDU（Re-Engineering & Design Up）、SV（スーパーバイザー）の派遣、部品交換など。

その他

小水力発電の導入における設計・施工・メンテナンスなど。



官公需

日本国内の国及び地方公共団体向け。上下水道施設、排水施設及びかんがい施設など。

民需

日本国内の民間企業向け。火力発電所（事業用、バイオマス発電やごみ焼却発電、自家発電含む）、一般産業の各種工場、ビル設備、商業施設など。

海外

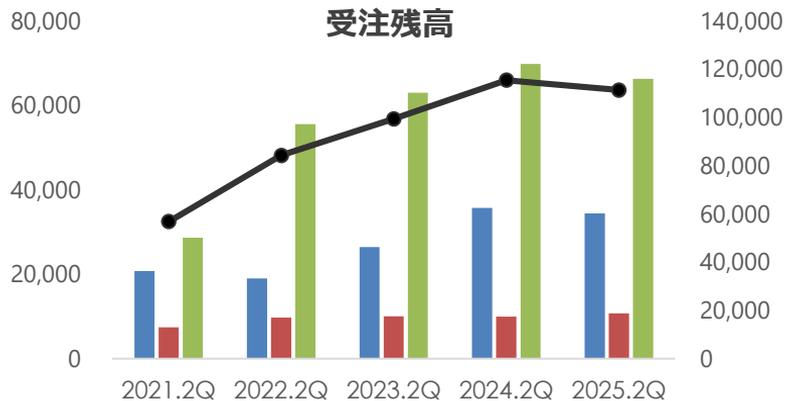
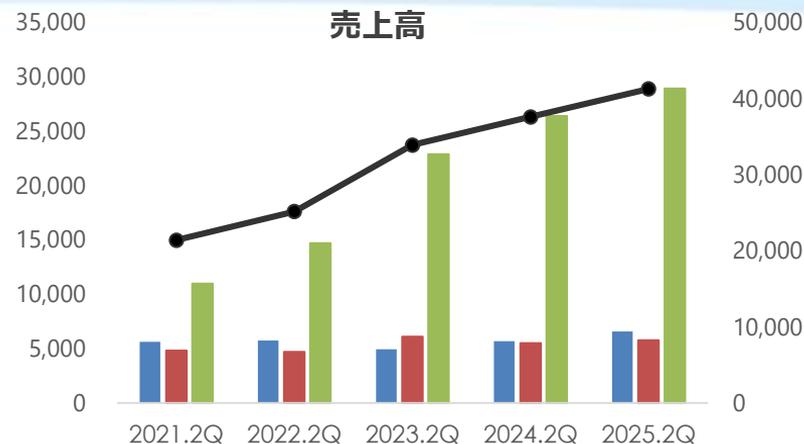
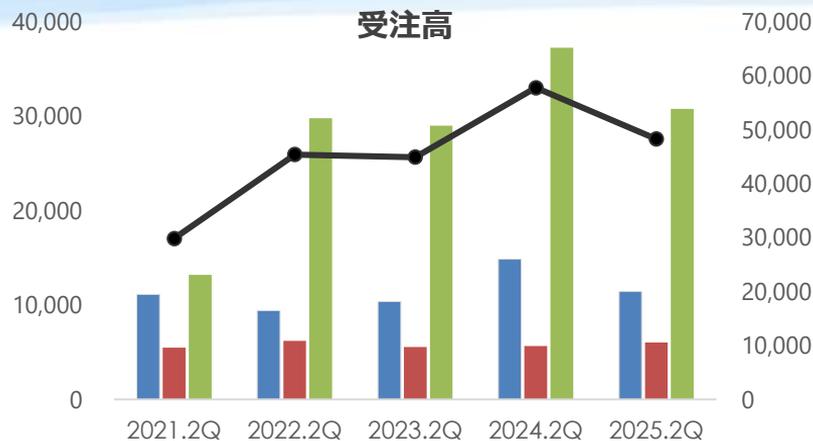
海外向け海水淡水化プラント、火力発電所、上下水道施設かんがい施設など。

需要先別 受注高・売上高・受注残高

単位：百万円

	2024年度2Q			2025年度2Q		
	受注	売上	受注残	受注	売上	受注残
官 需	14,859	5,667	35,704	11,428	6,551	34,378
前年増減率	43.1%	14.7%	35.1%	▲23.1%	15.6%	▲3.7%
民 需	5,665	5,508	9,906	6,051	5,773	10,688
前年増減率	1.6 %	▲9.3%	▲0.8%	6.8 %	4.8%	7.9%
海 外	37,293	26,388	69,780	30,802	28,914	66,243
前年増減率	28.5%	15.4%	10.8%	▲17.4%	9.6%	▲5.1%
合 計	57,819	37,565	115,391	48,282	41,240	111,311
前年増減率	28.5%	10.8%	16.1%	▲16.5%	9.8%	▲3.5%

需要先別 受注高・売上高・受注残高の推移



単位 : 百万円

左軸 : ■官需 ■民需 ■海外

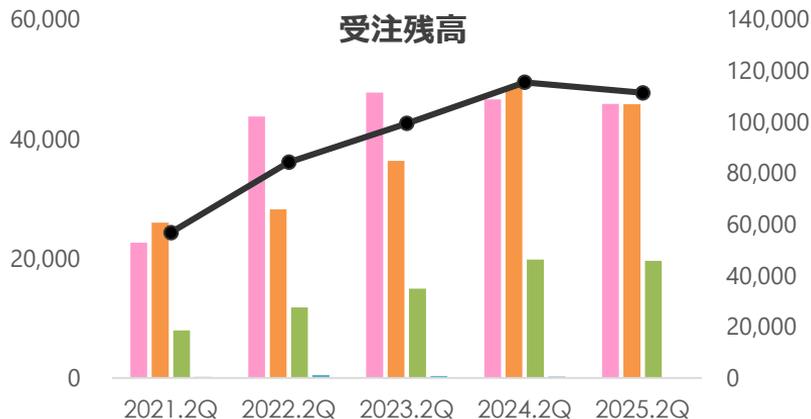
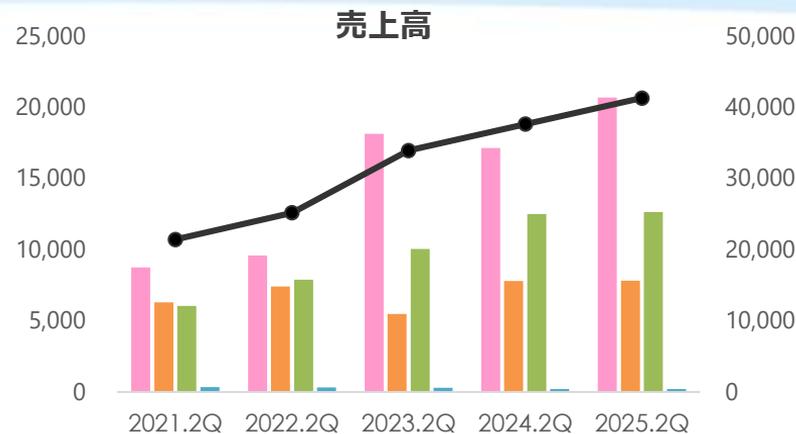
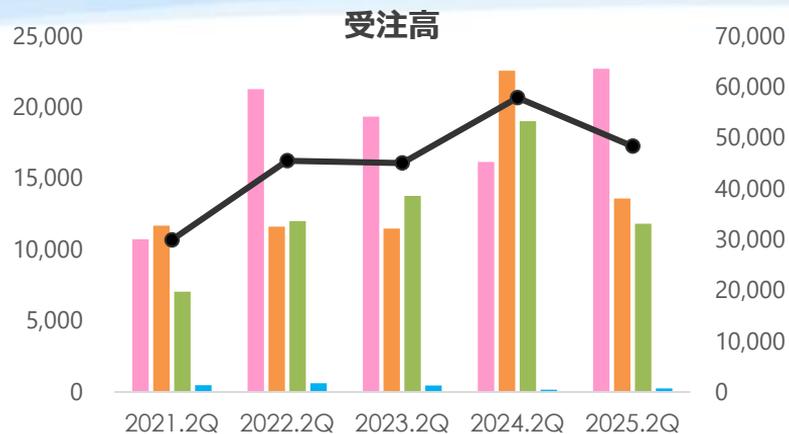
右軸 : ●合計額

事業分野別 受注高・売上高・受注残高

単位：百万円

	2024年度2Q			2025年度2Q		
	受注	売上	受注残	受注	売上	受注残
ハイテクポンプ	16,135	17,123	46,595	22,678	20,646	45,822
前年増減率	▲16.5%	▲5.5%	▲2.4%	40.6%	20.6%	▲1.7%
プロジェクト	22,534	7,790	48,749	13,568	7,797	45,777
前年増減率	96.7%	42.7%	34.1%	▲39.8%	0.1%	▲6.1%
サービス	18,999	12,469	19,822	11,794	12,611	19,586
前年増減率	38.2%	▲24.4%	32.4%	▲37.9%	1.1%	▲1.2%
その他	151	183	226	242	186	127
前年増減率	▲65.8%	▲34.2%	▲29.8%	60.3%	1.6%	▲43.8%
合計	57,818	37,565	115,391	48,282	41,240	111,311
前年増減率	28.6%	10.9%	16.1%	▲16.5%	9.8%	▲3.5%

事業分野別 受注高・売上高・受注残高の推移



単位 : 百万円

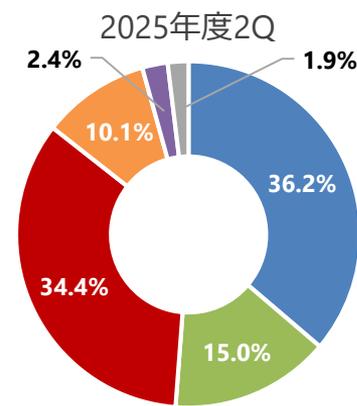
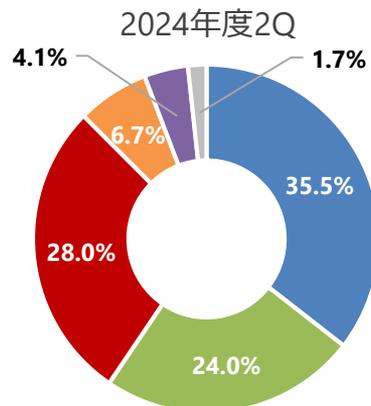
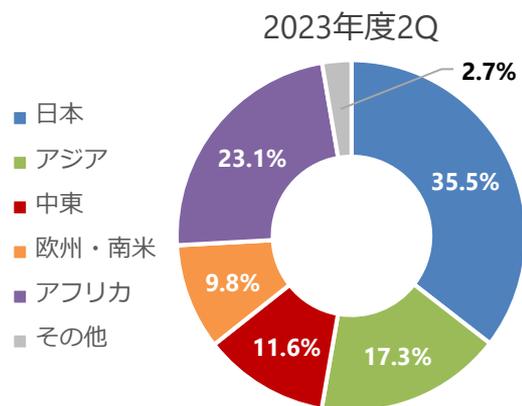
左軸 : ハイテクポンプ プロジェクト サービス その他

右軸 : 合計額

地域別 受注高

単位：百万円

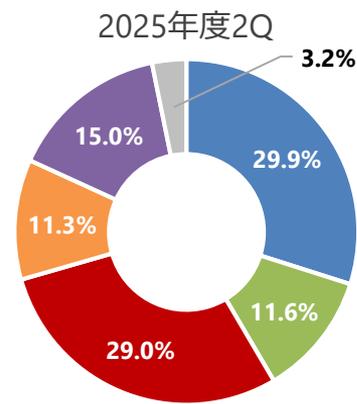
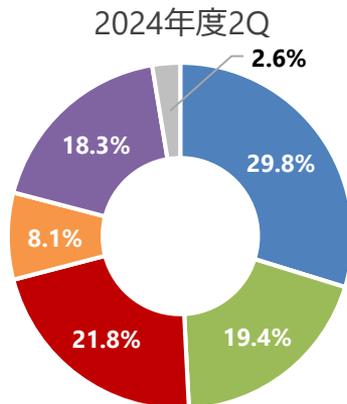
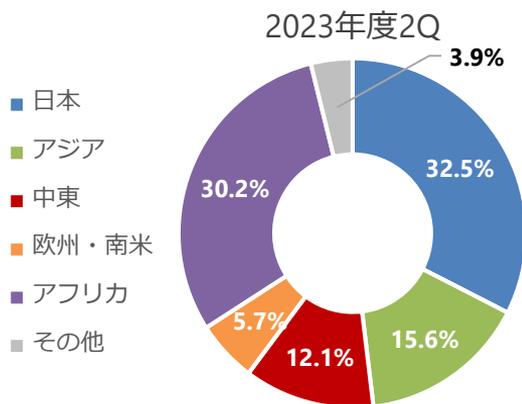
	日本	海外全体	海外内訳					合計
			アジア	中東	欧米	アフリカ	その他	
2023年度 第2四半期	15,950 (35.5%)	29,011 (64.5%)	7,766 (17.3%)	5,234 (11.6%)	4,388 (9.8%)	10,406 (23.1%)	1,218 (2.7%)	44,961
2024年度 第2四半期	20,524 (35.5%)	37,294 (64.5%)	13,871 (24.0%)	16,181 (28.0%)	3,881 (6.7%)	2,369 (4.1%)	993 (1.7%)	57,818
2025年度 第2四半期	17,479 (36.2%)	30,802 (63.8%)	7,244 (15.0%)	16,590 (34.4%)	4,878 (10.1%)	1,153 (2.4%)	937 (1.9%)	48,282



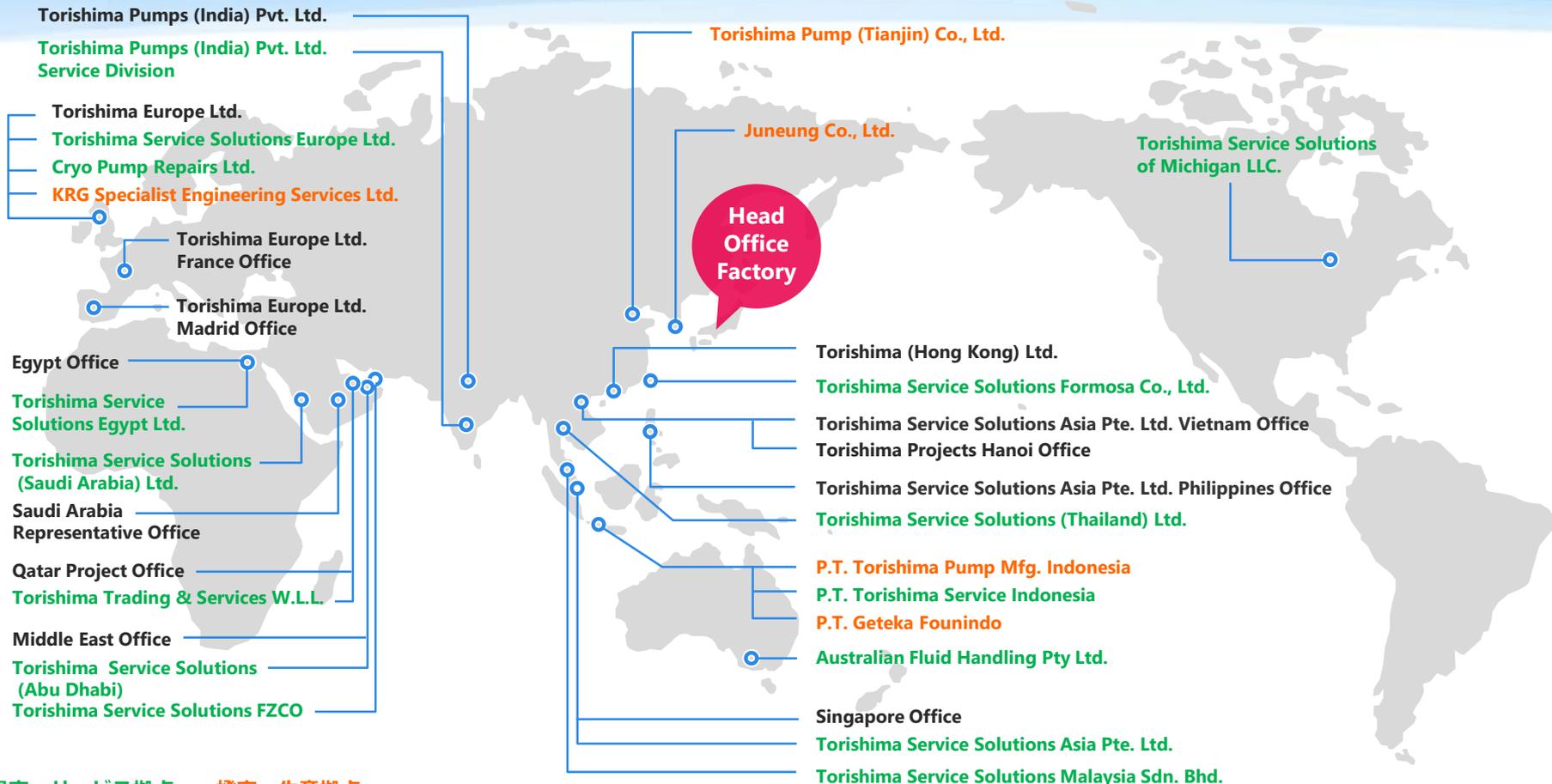
地域別 売上高

単位：百万円

	日本	海外全体	海外内訳					合計
			アジア	中東	欧米	アフリカ	その他	
2023年度 第2四半期	11,018 (32.5%)	22,859 (67.5%)	5,283 (15.6%)	4,109 (12.1%)	1,912 (5.7%)	10,242 (30.2%)	1,312 (3.9%)	33,877
2024年度 第2四半期	11,177 (29.8%)	26,388 (70.2%)	7,302 (19.4%)	8,172 (21.8%)	3,045 (8.1%)	6,885 (18.3%)	983 (2.6%)	37,565
2025年度 第2四半期	12,326 (29.9%)	28,914 (70.1%)	4,794 (11.6%)	11,976 (29.0%)	4,640 (11.3%)	6,177 (15.0%)	1,328 (3.2%)	41,240



グローバルネットワーク



本資料の業績などに関する将来の予想、見通しなどは現時点で入手可能な情報に基づき算出したものです。

したがって、実際の業績は今後の様々な要因によって、異なる結果となる可能性があることをご了承ください。

【お問い合わせ先】

株式会社 西島製作所 総務部コーポレートブランディング課

Tel : 072-695-0551

Email : ir-torishima@torishima.co.jp